



## 本拠点の目的

近年の脳科学の進歩によって、人間の行動は脳の機能発現として理解できるようになりました。脳が持つ行動決定の機能は生物が進化の過程で獲得した最適化戦略に由来し、動物行動学や脳科学によりその原理が記載できます。このような戦略が経済活動の主因ともなり人間社会の秩序に影響します。逆に、社会的環境は脳の機能発達に影響を与え、精神疾患にも関係します。本拠点はこのような多次元の相互作用を解明するため、各分野の学知を結集して文理を越えた融合領域の形成を目指します。

このために、以下の事業を実施します。

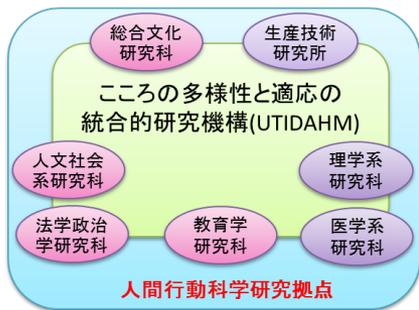
- 学内の研究者を結集して拠点を形成するとともに新分野の研究者を新たに雇用します。
- 共同研究により卓越した研究を達成するための分野融合の基盤を形成します。
- 融合研究を促進するための共同利用スペース、機器、支援体制を形成します。
- 各研究領域からの研究成果をとりまとめ、知の構造化をはかります。
- 人間行動理解のためのビッグデータ研究の推進とその成果の社会還元をはかります。

# 人間行動科学研究拠点の設立

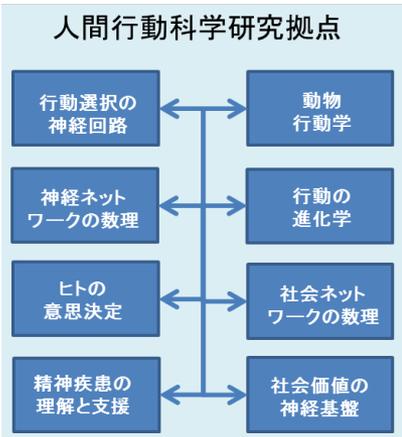
東京大学ビジョン2020「新たな価値創造に挑む学術の戦略的展開」には、文理連携かつ多様な分野の融合を目指す「人間行動科学」の実現が急務である。



UTIDAHMを中核とした  
既存の学内研究リソース



研究拠点  
形成



共同研究の  
推進  
融合分野  
研究者の  
リクルート  
共同利用  
スペース・  
機器等の  
整備

## 文理連携・融合型の 人間行動科学の推進

- 1. 行動選択の神経基盤**  
— 情動・意思決定・価値判断などの回路モデルと実際の神経系を対応付け行動発現の機構を解明
- 2. 行動発達の脳科学**  
— 遺伝・環境・行動の関係性を解析し精神疾患の多様性を分子から行動、社会のレベルで理解
- 3. 社会集団の行動科学**  
— ゲノム・エピゲノム解析との融合研究により遺伝と文化の総合作用・集団行動発現機構を理解
- 4. 人間行動の情報学**  
— 社会動力学・行動・脳活動・分子動態に関わる大規模データから、新たな人工知能システムを構築

ヒト脳画像 動物モデル作成 ゲノム・エピゲノム



## 文理連携・融合研究の 波及効果

成果  
発信  
実用化

- ✓ 融合新分野開拓
- ✓ 卓越した研究の推進
- ✓ 人間行動・社会・文化の科学的理解の深化
- ✓ 脳の発達や障害に対する適切な支援
- ✓ 人間行動と社会の関わりの定式化
- ✓ 社会・経済問題解決の基盤提供